

マイボーム腺機能不全の病態と治療 Up to date

ショートタイトル：MGD 病態と治療 Up to date

マイボーム腺疾患の病態を理解するには、その形態 (Morphology) と機能 (Function) の評価がキーファクターとなる。私たちは非侵襲的マイボグラフィを開発し、その形態変化と様々な疾患との関連を明らかにしてきた。マイボーム腺機能不全 (MGD) では、マイボーム腺が消失している部分に一致して眼瞼結膜温度が低下しており、MGD の発症機序に末梢血流障害が関与している可能性が示唆され、MGD 治療の第一選択とする根拠を示した。最近では、病院で行う温罨法として LipiFlow と IPL (Intense Pulse Light) が注目され、病態に基づいた治療が行われるようになってきている。さらに、生体における涙液油層の干涉縞パターンから涙液の性状や油層厚を評価することが可能となり、マイボーム腺の機能評価が行えるようになってきた。これらのマイボーム腺の評価と涙液水層の評価を組み合わせることで、涙液がその恒常性を維持するために油層と液層がお互いに補填しあっていること (tearfilm compensation theory) を明らかにした。本講演ではマイボーム腺の形態評価と機能評価を融合するという新しい概念に基づいた MGD 病態理解と治療をわかりやすく解説する。